



学校評価アンケート結果の分析・考察その3 <教育目標「挑戦」について>

注目

<設問 17・18・19> よりよい授業・楽しい授業・わかりやすい授業



大項目・「挑戦」の前半の3問は、チーム飯野中としての「挑戦する姿勢」「改善への取組」への評価と捉えています。

昨年度の結果と比較してみると「よりよい授業」についての設問では、昨年度調査でのプラス評価は、生徒が87%でしたが今回は95%へ、保護者評価は昨年度70%でしたが今回は74%へとともにUPしました。

「楽しい授業」については生徒のプラス評価が92%から97%へ、保護者が9

1%から93%へUP、「わかりやすい授業」については、生徒が89%から97%へ、保護者が66%から76%とすべての評価でいずれもUPしています。

昨年度のこの3つの設問の分析・考察では、「授業は楽しいけれど、分かりにくい傾向があるので、『授業改善にもっと取組んでほしい』というのが生徒・保護者の思いだと考えます。楽しく、かつ分かる・できる授業を目指してさらに改善を図っていきたいと思います。」と学校だよりに掲載しました。今年度の評価結果を



見ると、なんとか改善が図られたのではないかと思います。まずは、この結果を素直に受け止めたいと考えます。

ただ、保護者への設問「生徒は分かりやすいと言っている」のプラス評価が、まだ70%代であることを考えると、さらに分かりやすい授業づくりに挑戦しなければならないと考えます。

私たち教師が授業改善に挑戦することで、生徒も「もっとできる・分かるようになりたい、もっとがんばる!」というチャレンジ精神を持って、根気強く学習に取り組む姿勢をさらに高めていってほしいと願っています。

<設問 20・21・22> 部活動・進路目標への取組と挑戦



部活動への積極的な参加については、生徒の評価が96%となり、昨年度より3%のUP、逆に、保護者の評価は93%から89%にDOWNしています。



保護者の評価が下がった要因としてはコロナの影響が少なからずあるのかもしれませんが、中体連総合大会がなくなり、新人戦も無観客で開催されたため、保護者は直接、生徒が大会で活躍する様子を見ていないという面が大きいように思います。



学年別に見てみると、生徒評価では1年生の生徒のプラス評価が100%となっています。部活動が学校生活の一つの柱となり、中学校生活が軌道に乗ってきたもの



と考えたいですね。また、保護者評価では、引退した3年生の保護者の評価が最も高いのが印象的です。

臨時休業の影響で、最後の年の部活動の期間が短くなって、その上、大会がなくなっても、最後の試合を目標に毎日がんばって取組んでいた生徒の姿勢を高く評価していただいたのではないかと考えます。

進路目標への取組では、さすがに3年生はプラス評価100%、また2年生





も100%で「素晴らしい！」の一言です。保護者評価でも3年生は92%、2年生は90%となっており、素晴らしい評価をはじめ出しています。1年生も、3年後の進路を見つめて、少しずつ進路学習を進めて、進路目標と進路計画をしっかりと立てて実践していくようにしましょう。一緒にがんばりましょう！

<関連> 保護者の自由記述から

- 授業も部活動も楽しく取組める環境を作ってくださいまして感謝いたします。松桜祭も3年生主体として、一生懸命取組んだ生徒の姿にとっても感動しました。(1年)
- 部活動の事で一生懸命やりたい子どもたちがいるのに、先生がその気がなく、親としては残念です。あまり求めすぎてもいけないとは思っているのですが……。(2年)

貴重なご意見、ありがとうございます。

「楽しい」は全ての原動力。授業も部活動も楽しんで取組むことでさらに伸びていくものと考えます。でも、楽しいだけではなく難しい勉強、辛い練習も当然あります。目標を持って取組ませることが大切だと考えます。

2つ目のご意見、なかなか厳しいご指摘です。学校評価は無記名ですので、どの部活かはわかりませんが、こういったご意見があることも真摯に受け止めたいと思います。

2つ目のご意見の最後に「あまり求めすぎではいけないとは思っているのですが……。」という文を見て、校長としては、「保護者の皆さんも、学校のことは十分理解していただいているな。」と少し安心しました。

今、本校だけでなく、全国的に、教員は時間外労働が多く精神的にも肉体的にも追い詰められ、心身の体調を崩し、休みを取らざるを得なかったり、中には命



に関わることに繋がったりすることもある状況が問題視されています。その解決策の一つが「学校の働き方改革」です。

教員の本来業務は授業であり、教員の月～金の勤務時間は16:40まで、その後の部活動・下校指導・生徒下校後の授業準備等は、勤務時間外、無報酬での業務です。また、休みの土日のいずれかは、ほぼ毎週、部活動の指導や試合引率で、その時間については手当が支給されます。(ちなみに、休日の部活動指導手当は2時間以上で1,800円です。)

さらには、学校の教員数は限られていますので、教員が中学・高校・大学時代には一度も経験したことのない専門外の種目での顧問担当や、音楽や美術等の文化・芸術系の経験しかない教員が、突然、運動の顧問になるということも、当然のように各中学校では行われています。

校長としては、こういった様々な部分で矛盾が多いのが部活動であるということについて、この機会に保護者の皆様にもご理解いただきたいと思っています。だからと言って、「指導できないからやらない。」ということではありません。現状でも、これまで経験のなかった種目で顧問をしている本校教員も、休日返上で講習会等に出かけて、講習料を自腹で払って大会への参加や運営、指導に必要な資格を取り、指導の技術や知識を身につけ、少しでも指導力を向上させたいと取組んでいる顧問がいます。

文部科学省・スポーツ庁では2023年を目途に、中学校の部活動を社会や地域へ移行するという計画を公表しています。

計画が実現するために、部活動種目の専門知識や指導技術だけでなく、成長過程にある中学生段階の心身の特性やスポーツマンシップをはじめとした人間性の総合的な育成ができる信頼ある指導者がいて、はじめて受け皿となると考えます。地域で「我こそは」と思う方は、ぜひ積極的に生徒の健全育成とスポーツ・文化の充実・育成にご協力いただきたいと思います。

部活動についても、みんなで見守り、みんなで育んでいきたいものです。

